
東日本大震災
緊急支援
レポート
Save the Children
JAPAN
ありがとう！







「ひとりでいたくない。
だって一人でできることって
少ないから。一緒にいれば、
僕たちは強くなれます」

やすくん　10歳

「学校が好きです。
でも、こどもひろばも好きです」

ひよりさん　8歳



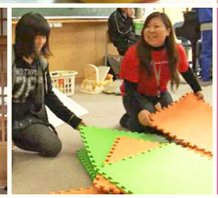








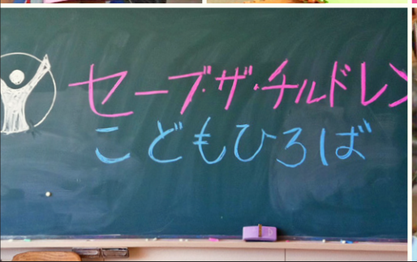




「前は悲しくて何もできなかったけれど、
今は、たくさんの友だちと遊んでいます」

えりかさん　8歳









被災地の子どもたちのために、ありがとうございます。
皆様のご支援が子どもたちを笑顔にしています。

この度の東日本大震災で被害にあわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、
震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

私たちセーブ・ザ・チルドレンは、東北で被災した子どもたちのために、
安心かつ安全に遊べる場所として、「こどもひろば」をいち早く設置しました。「こどもひろば」は、
震災の怖さや悲しみを経験し、避難所などで我慢をつづける子どもたちが、
思いきり遊ぶことで自分を表現し、そして少しでも日常の自分らしさを取り戻すことを
サポートするための空間です。

このレポートは、その「こどもひろば」の設置と物資の配布を中心とした、約２ヶ月間の活動報告です。
皆様に子どもたちの笑顔をお届けするために制作しました。

子どもたちの笑顔は、被災地の確かな希望です。セーブ・ザ・チルドレンも引き続き
子どもたちの希望を支え、東北の復興に微力ではありますが尽力してまいります。
皆様にも活動を見守っていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

セーブ・ザ・チルドレン

こどもひろば　2011年3月 宮城県・岩手県　表紙写真など写真撮影：ZETS, セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン など

＊こどもひろばができるまで＊

①現地の方々に
こどもひろばの
意義と目的を
説明して
まわります。



②避難所に
子どもたちの
遊べる場所と
遊具を準備





③ひろばの設営に子どもたちも
喜んで参加してくれました。

④たくさん遊びに来てもらうため、
告知ポスターも子どもたちと
一緒に製作



⑤みんなにお知らせ。
「遊びに来てね」



＼こどもひろば 開設★／



自分たちで遊びを決めます。





創造力を発揮

「新しい友だちができた！」





「楽しいね！」



緊急支援チームを
立ち上げ、子ども支援の
ニーズ調査を開始

KODOMO-HIROBA 8

宮城県につづき
岩手県にこどもひろばを設置。
全体で8ヶ所に増える。

KODOMO-HIROBA 19

震災から1ヶ月。
こどもひろばは
宮城県・岩手県で
19ヶ所に増える。

宮城県で
ランドセルの贈呈式





「夢とらっく劇場」の開催
※詳しくは最後のページ

2011年 3月 11日 12日 16日 26日 30日 4月 11日 15日 29日 5月 5日



地震と津波の発生

KODOMO-HIROBA 1

最初のこどもひろばを
宮城県に設置

衛生用品など、
物資の配布を開始



３月11日地震発生から
約２ヶ月間の活動報告をお伝えします。

＊ランドセル贈呈式の様子＊



①1つ1つのランドセルの中に筆入れ、
色鉛筆にノートや定規などを入れました。

②緊急支援チームから
ランドセルを贈呈。



③「たくさん学んでください」
校長先生から一人ひとりに
手渡してもらいました。



「ありがとう」





「やったー！」

「ランドセルまた
手に入ってよかった」





「ごほうびがもらえたね」

「入学式の前に、子どもたちにランドセルを届けることができて本当に良かったです。学校は被災しましたが、多くの方の励ましで何とか学校を再開できます。皆様のあたたかいお気持ちをしっかり受け止め、地域の復興を目指して、私たちも頑張ります」

東松島市立大曲小学校　亀卦川 孝雄 校長先生
（きけがわ）



夢とらっく劇場







【開催日：4月29日、30日と5月1日、3日、4日、5日の計6日】

４トントラックが岩手と宮城の２県をまわり、子どもたちが楽しく過ごす参加型イベントを開催しました。

避難生活を送るなかでも、子どもたちとその家族に、ゴールデンウィーク・子どもの日を楽しんでもらいたい！
そういう思いから、岩手（釜石市・山田町・陸前高田市）と宮城（名取市・東松島市・石巻市）の計６ヶ所をめぐる「夢とらっく劇場」を開催しました。
トラックの荷台を舞台に、子どもが参加する劇を上演するものです。劇が始まる前には、子どもたちが段ボール製の椅子を作る
ワークショップも開催。その椅子に腰かけて、「セロ弾きのゴーシュ」を観劇するという内容です。
いわば、ゴールデンウィーク特別版「こどもひろば」。どの日も快晴に恵まれ、会場には、
1日平均１８０人の子どもたちや家族などが集まり大盛況となりました。
劇の途中、子どもたちが舞台に上がって鈴やラッパをゴーシュたちと一緒に合奏するシーンには、
会場全体が満面の笑みに。お菓子や飲み物、お絵かきグッズやおもちゃなど、
エコバック一杯に詰めたおみやげと、思い思いに作り上げた自分の椅子を抱えて、
子どもたちは笑顔で元気に会場を後にしました。その姿を見送りながら、
これからも活動を続けていく力をもらったのは、他でもない私たち。
子どもたちこそが、復興の担い手なのだと改めて強く感じた瞬間でもありました。



＊今回、被災地を楽しませてくれた劇団「夢とらっく～結～」は、宮城県内のこどもひろば運営スタッフが、県内で演劇活動を展開する仲間に呼びかけ結成した有志グループです。

Save the Children Japan Staff Message.

震災直後から、たくさんのスタッフが
さまざまな思いを持ちながら、この緊急支援に携わってきました。
今回は４人から読者の方へメッセージをもらいました。



津田　知子
緊急支援プログラムマネージャー

活動をする中で、しんどい状況にあっても明日への希望や夢を語る多くの子どもたちに出会いました。これからも保護者や地域の方々と連携し、子どもたちの声に耳を澄ましながら、子どもたちと共に、復興に向け、歩んでいきます。



田代　光恵
岩手・プログラムリーダー

ひろばのスタッフは、日々ひろばの様子や出来事を共有し合い、子どもたちにとってより良い環境を作り上げようと思いを一つにしています。これからも、被災地で子どもに寄り添う大人の輪を広げていきたいと思います。



山田　心健（むねたけ）
岩手・プログラムコーディネーター

運動が好きでいつもドッジボールを企画してくれる男の子、友達と協力して色とりどりの貼り絵を作る女の子。こどもひろばの子どもたちは、遊びを通して、みんな全力で自分を表現しています。みんなが可能性と力に満ち溢れています。



越川　芳枝
仙台事務所所長

ランドセル贈呈式の日、あるお母さんが娘さんに向かって、「がんばってきてよかったね」と嬉し涙を浮かばせながら言った一言に励まされました。これからも子どもたちに寄り添いながら、復興に向け支援をしていきます。

東日本大震災
セーブ・ザ・チルドレンの活動報告



これまでの活動

2011年3月11日～
4月30日の実績

1　子どもの保護

- ☑ こどもひろばの設置：宮城と岩手２県の避難所１９ヶ所に設置。子ども８０７人が参加（うち、登録者人数：５０８人）
- ☑ スタッフ・ボランティア研修：こどもひろばを担うスタッフ・ボランティア１１９人に、ひろばの運営や子どもの保護に関するトレーニングを実施
- ☑ 保護者に対して、被災が子どもに与える影響など情報をまとめたヒント集を配布

セーブ・ザ・チルドレンは、こどもひろば（英語ではChild Friendly Space）を世界中の紛争や災害などの緊急支援の現場で開設しています。遊びや活動を通して、子どもたちが同年代と交流し、自分を表現することで、子どもらしくいられる時間を取り戻し、被災による影響から立ち直ることをサポートします。また、子どもがひろばに参加することは、保護者が生活再建に向け必要な準備や手続きをする時間を持てることにもつながります。

2　物資の配布

- ☑ 衛生キット：１５０キット（約６００人分）を配布。内容はタオル、ハブラシ、歯磨き、石鹸、洗濯石鹸、下着など
- ☑ 学用品キットの配布：ランドセルと文具キット（ノート、筆記具、定規など）を2,600セット配布
  ほか、文具キットのみ３２０キットを配布
- ☑ こどもひろばキットの配布：２２ヶ所に配布。内容は、お絵かき道具、粘土、折り紙、遊び道具、絵本など

今後の活動

今後も、被災地の子どもたちと保護者を対象に、現地のニーズを聞きながら支援活動を展開いたします。

- □ 学用品（体操着、ピアニカ、リコーダー、習字セット、裁縫セットなど）の配布
- □ 学校備品（キーボードなど）の提供
- □ 学童保育・保育所・児童館などの個々のニーズに合わせた施設運営サポート
- □ 避難所での仮設トイレ設置、学校、保育所、避難所などへ救急箱の配布
- □ ＰＴＡと連携、学校の復旧・復興サポート
- □ 給食設備が機能していない地域の小中学校・幼稚園での補助食の提供
- □ 子どもたちや保護者を対象にした心理社会的ケア

＊今後も、ホームページの活動報告ブログなどを通して、活動の報告をさせていただきます。　**www.savechildren.or.jp**

Save the Children
JAPAN



発行：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル 4F　ご支援に関するお問い合わせ　03-6859-0068（平日 9：30-18：00）

2011年5月発行　印刷協力：星光社印刷株式会社